



中丹高次脳機能障害者と家族の会

“さくらの会”便り

No110 2017.12.8

発行責任者
会 長 田中 明
編集責任者
事務局 長 上原 栄
Tel.0773-22-7859

ーリラックスできて、はげまし合うところ、勇気を与えられるところー



病院から地域をつなぐ

後半は交流会に34名が



第2回グループ訓練フォローアップの講演会と他職種連携ワークショップを11月19日午後、「市民交流プラザふくちやま」で開催しました。

前半の講演会では、本多伸行先生「脳に障害のあるひとへの支援方法について」と題して、セラピスト等を対象に、病院から地域支援をいかに進めていくかなど有益な話を聞きました。

セラピストのみなさんは、作業療法士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、看護師、保健師、介護福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員、音楽療法士の方々に20名が参加しました。

後半の他職種連携ワークショップでは、セラピスト等（20名）グループ訓練参加者と家族（14名）が参加しました。

「お互いの仕事を知りましょう」と題して4グループに分けて自己紹介に始まり、今利用しているサービス、これから支援して欲しいサービスや問題点等の交流を行いました。

本多先生からは、今後、地域、横の繋がりを発展させて行こうと話されました。

参加者感想

30代 作業療法士

病院で働いていると、退院後の生活がイメージしにくい。本多先生から具体的な支援についての講義があったので、とても参考になりました。急性期病院から、退院後の生活を見据えた関わり方を実践していこうと思います。

参加者感想

理学療法士

当事者・その家族・多職種が集まり、当事者の支援方法について様々な立場から意見を聞くことができ、非常に有意義な時間でした。こんな勉強会は、ぜひ今後も継続してほしい。

20代保健師

普段働いていても、こういった「生の声」を聞くことはとても少ない。今日、話したことを「スピーカー」となり、職場の人に届けたいと思う。

20代 作業療法士

今日、実際に「さくらの会」に参加して、こうやってみんなで話しをすることの重要性を感じたので、これからも家族会に参加してみようと思います。

「さくらの会」事務局から

当初は参加者が少なくどうなる事かと心配していましたが、綾部市のセラピストの方にご尽力して頂き、20名の専門職種の方々に集まって頂き大変嬉しく思っています。

「病院から地域を繋ぐ」という目的に向かって1歩前に進みました。当事者・家族も気づきがあり、前進しています。

丹後中央病院で、「当事者と家族の思いを聞いて、感じて、考えて見ませんか」という事例検討会があります。さくらの会で活動してきたことが、少しでもお役に立てればと思っています。

当事者・家族は、専門職種の方々のお力添えを切に願っています。



高橋さん綾部市から表彰 福祉功労者賞

第39回綾部市社会福祉大会」が、11月2日（木）綾部市のI・Tビル2階多目的ホールで開かれ、高橋 宏さんが福祉功労者表彰を綾部市長から受けられました。

行事予定のお知らせ

新春交流会

日時 平成30年1月28日（日）

場所 綾部市保健福祉センター

「調理実習」「歌って動いて笑いましょう」と交流会 詳細は次号で

【編集後記】
▼はや十二月！例年より早く寒くなりました。
▼お鍋をガス台に。ガスコンロがピッピツとなった。
▼火をつけていたことを忘れて他の仕事をしていた。
▼ガスコンロは、賢くなりました。
▼でも、年のせいにしないで、気をつけないと

